

平成 30 年ホヤ類調査結果速報 No. 4

平成 30 年 10 月 18 日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

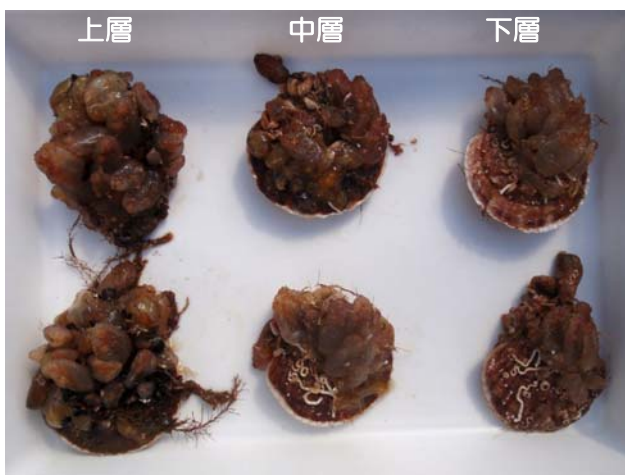
【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

10 月 15 日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物の調査を行いました。

結果概要

- ヨーロッパザラボヤの付着個体数はホタテガイ 1 枚あたり 17.8 個体でした（表 1）。過去 5 ヶ年の平均と比較すると少ないです（図 3 上）。
- ヨーロッパザラボヤの付着重量はホタテガイ 1 枚あたり 27.7g でした（表 1）。付着重量も過去 5 ヶ年の平均と比較すると低い値ですが、今後、付着個体の成長により付着重量は増加することが見込まれます（図 3 下）。
- ヨーロッパザラボヤの成熟サイズは概ね 25mm です。今回の調査では 25mm 以上の個体の割合は約 4 割であり、成熟個体が増加していると考えられます（図 2）。
- 平年よりもヨーロッパザラボヤは少ない状況ですが、「今後、付着重量の増加が見込まれること」、「耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの成熟が進んでいること」から、状況に応じて、貝洗い等の対応を進めて下さい。

図 1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ 平成 30 年 10 月 15 日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・夏池
TEL:0138-83-2893 FAX:0138-83-2849

1：耳吊りホタテ貝付着物調査

【調査月日：10月15日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚】

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました（図1、表1）。ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数はホタテガイ1枚あたり17.8個体、平均サイズは22.7mmでした。前回の調査（それぞれ31.9個体、12.2mm）から、個体数は減少しましたが、平均サイズは約2倍に成長しています（図2、図3上）。個体数の減少よりも付着個体の成長の影響の方が強く、付着重量は前回（11.8g）から2倍以上に増加しています（表1）。成熟の目安となる25mm以上の個体の割合は42%であり、今年付着したヨーロッパザラボヤも一部繁殖を始めていると推測されます。

来月以降も付着個体の成長の影響が強く、付着重量は増加していくと考えられます（図3下）。出荷時期（12～4月）にホタテガイ1枚あたり10個体残っているだけでも、ホタテガイを上回る重量となり、成長にも悪影響が出ます。また、ホタテガイ上で成熟した個体が繁殖することも新たな付着につながると考えられます。各地区の状況に応じて、貝洗い等の対応を進めてください。

表1 付着生物調査結果（八雲地区：平成30年10月15日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	平均
全付着物重量	116.5g	84.1g	48.2g	82.9g
ヨーロッパザラボヤ	39.0g	25.9g	18.3g	27.7g
その他	77.5g	58.2g	29.9g	55.2g
ヨーロッパザラボヤ個体数	19.6個体	13.8個体	20.0個体	17.8個体
平成29年10月（H29.10.18）の個体数	12.4個体	64.4個体	51.4個体	42.7個体
平成28年10月（H28.10.18）の個体数	27.0個体	64.0個体	50.0個体	47.0個体
平成27年10月（H27.10.19）の個体数	36.2個体	58.4個体	74.0個体	56.2個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：平成30年8月～10月）

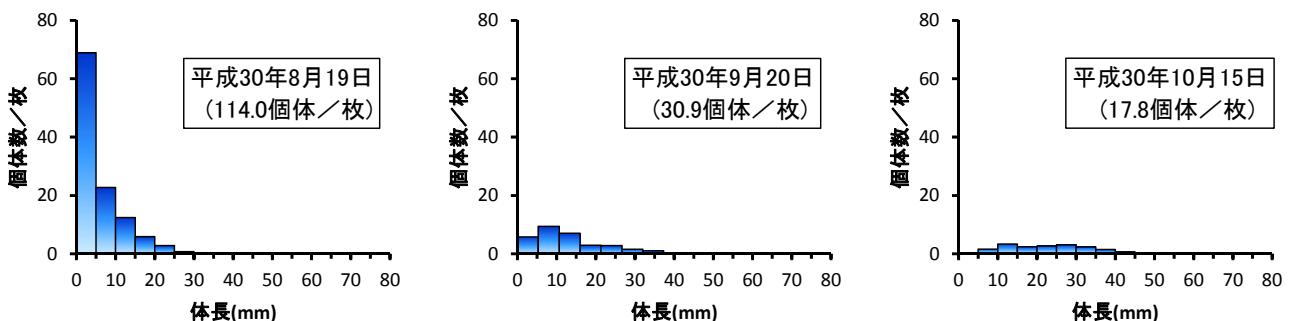
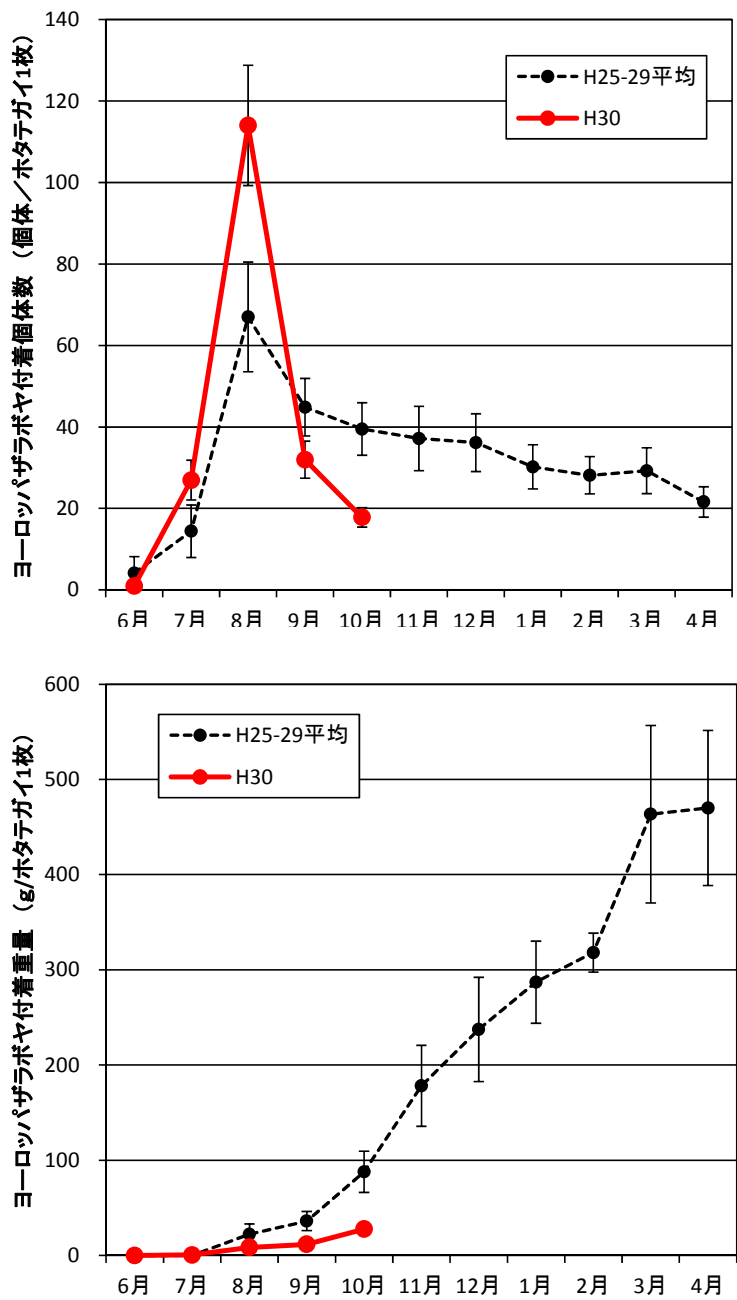


図3 ヨーロッパザラボヤ付着量の季節変化（八雲地区）



上図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下図：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去5ヶ年（H25～29年）のデータでは、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着は7～8月が中心となっています。付着重量は10月～翌1月にかけて急激に増加します。今年は8～9月の個体数減少が著しく、付着個体数は少なくなっていますが、今後は個体数の減少は緩やかとなり、重量は増加していくと予測されます。